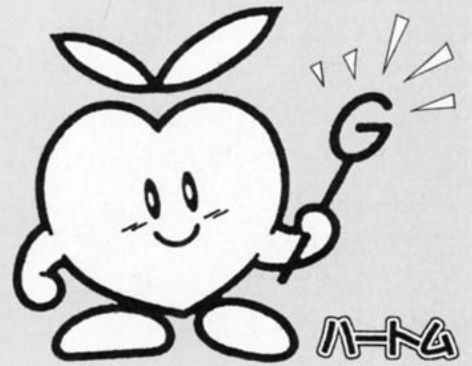


人にやさしい街づくり



「人にやさしい街はどんな街？」をテーマに市民ワーキングの皆さんに議論していただきました。先回の高齢者グループに引き続き「青年グループ」の提言をお知らせします。なお、紙面の都合で、一部要約してありますのでご了承ください。

市民ワーキング活動報告2

《青年グループ》

飯島宏幸 小田英範 飛田重明 梶山健二 西浦真祐美
河井友孝 島田正人 坂部民子 星野由里子 吉本幸志
鈴木孝則

【敬称略】

50 km ハイイクと広報ヤングがまごおり

はじめに

はじめに、私たちはこのワーキンググループで話し合った内容をどのような形にして報告しようか話し合いました。そこで、従来こういった市民会議が開かれると、決まって、「私たちのまちにはあれがない、これがない、ああして欲しい、こうし

て欲しい」と単に行政に対して要望する形になりがちなので、そうではなく「私たちはこうしようと考えている」とか「私たちに何ができるのか」という視点に立ってこの報告書をまとめました。

また、「人にやさしい街づくり」の定義はあまりにも広く漠然としているので、私たちのワーキンググループは「50 km ハイイク」と、若者を対

象にした広報がまごおりのヤング版「広報ヤングがまごおり（仮称）」の2点に絞って話し合いました。

50 km ハイイク

現在の「50 km ハイイク」を健常者だけでなく、高齢者や障害者にも開かれたイベントにして、健常者と障害者、若者と高齢者の交流の機会にしていきたい。

(1) 具体的にどのような形で高齢者や障害者の人が「50 km ハイイク」に参加できるのか。

- ・ 50 km ハイイクの競技者として障害者の人が参加できるようにしたい。
- ・ 習字の上手な人に完歩賞に参加者の名前を書いてもらう。
- ・ 完歩賞（キーホルダー）のデザインを依頼する。

・ チェックポイントで団子を焼いたり、スタンプを押ししたり、飲み物を配布するなど、休憩所でのサポートをしてもらう。

・ 「50 km ハイイク」の宣伝ポスターを作成してもらう。

・ 「50 km ハイイク」を企画の段階から参加してもらい、高齢者や障害者の立場からコース設定から運営全般に至るまでアドバイスをしてもらい、高齢者や障害者にとってより安全で参加しやすいイベントにする。

